



now

農林漁業信用基金 広報誌【基金now】

SPRING
vol. 06
2021 MAY

寄稿

株式会社農業総合研究所 代表取締役会長CEO
及川智正

地域の農林漁業だより

静岡県農業信用基金協会
高知県農業信用基金協会
北海道森林組合連合会
全国漁業信用基金協会 青森支所
全国漁業信用基金協会 鳥取支所
静岡県農業共済組合（NOSAI静岡）

基金 One Team!

里山の管理と資源利用への提案
神戸大学森林資源学研究室教授 黒田慶子

令和3年度の業務運営方針について

愛宕トリビア

寄稿

- 01-05 “持続可能な農産業を実現し、生産者を豊かにする”
産直流通のリーディングカンパニーとして
株式会社農業総合研究所 代表取締役会長CEO 及川智正

地域の農林漁業だより ～保証保険を支える全国の皆さまから～

農業信用基金協会だより

06-07 静岡県農業信用基金協会

08-09 高知県農業信用基金協会

林業信用保証相談員だより

10-11 北海道森林組合連合会 総務指導部長 遠藤 芳則

漁業信用基金協会だより

12-13 全国漁業信用基金協会 青森支所

14-15 全国漁業信用基金協会 鳥取支所

農業共済組合だより

16-17 静岡県農業共済組合（NOSAI静岡）

基金 One Team! ～私たちの制度運営を支える皆さまから

- 18-21 里山の管理と資源利用への提案
神戸大学森林資源学研究室教授 黒田慶子

業務関連情報・信用基金の動き・人事異動等

- 22-23 令和3年度の業務運営方針について
24-25 愛宕トリビア
26 信用基金の動き、人事異動、編集後記



富士山と茶畑の風景
《静岡県》

“持続可能な農産業を実現し、生活者を豊かにする” 産直流通のリーディングカンパニーとして

株式会社農業総合研究所 代表取締役会長CEO 及川智正

「持続可能な農産業を実現し、生活者を豊かにする」をビジョンに掲げ、全国の都市部を中心としたスーパーマーケットで『農家の直売所』を運営し注目されています、株式会社農業総合研究所 及川代表取締役CEOよりご寄稿をいただきましたので、ご紹介します。

はじめに

みなさま、はじめまして。株式会社農業総合研究所の及川智正です。私は大学卒業後、会社員を経て、農業の生産と販売の双方に従事し、2007年に和歌山で当社を設立し、生産者と都市部のスーパーマーケット（以下「スーパー」）等を直接結ぶ「農家の直売所」事業をスタートしました。起業時のエピソードなど、様々お伝えしたいところですが、今回は弊社の事業について、説明させていただきたいと思います。

これまでにない 新しい農産物流通

当社は一言でいうと、「産直流通のリーディングカンパニー」です。物流・IT・決済のプラット

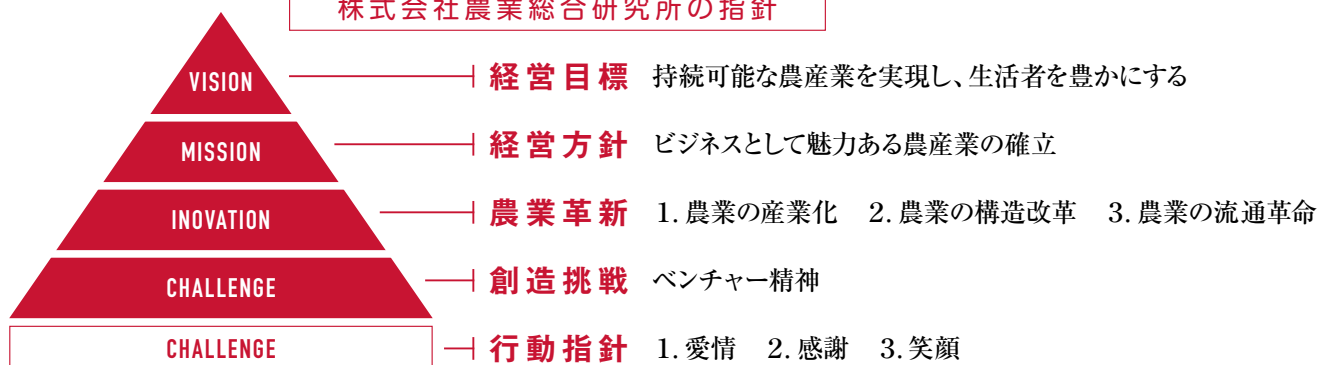
フォームを独自開発し、全国の生産者と小売店（主にスーパー）にこれらのプラットフォームを開放し、「産地直送の顔の見える農産物流通」を実現しました。

創業から9年目には農業ベンチャー初の上場を果たし、11年目には取扱高が100億円を超え、農産物の市場外（産直）流通を手掛ける企業として、業界内外から注目していただきました。現在は、日本郵政やJR東日本、A-FIVEとの資本提携や、日本航空や佐川急便など様々な企業、機関と積極的に提携を行っています。農産業を盛り立てるべく、それぞれの持つリソースを活用し、事業を拡大しています。

ビジネスとして魅力ある 農産業の確立

農業は作って終わりではなく、販売して生活

株式会社農業総合研究所の指針





者に食べていただくまでの仕組みを作ることが重要です。また、すべての生産者が公平に競争しながら続けられる、頑張った人が成長できる農業の仕組みづくりに貢献したいと考えてい

ます。

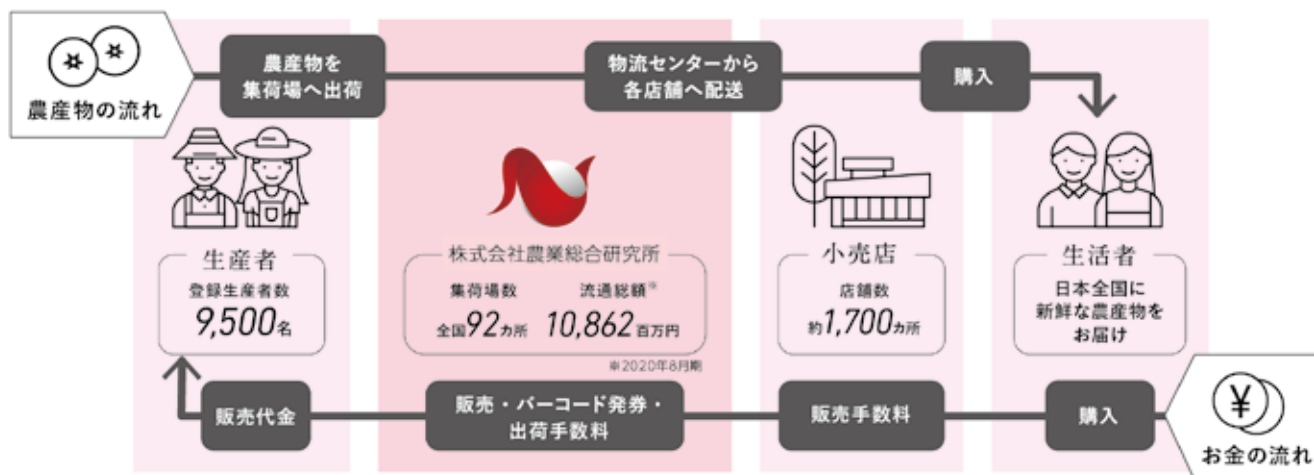
当社のビジョンは「持続可能な農産業を実現し、生活者を豊かにすること」です。

そしてこれを達成するために、「ビジネスとして魅力ある農産業を確立」を実現していきます。具体的には「農業の産業化」「農業の構造改革」「農業の流通革命」の事業化をしていきたいと考えております。

農家の直売所

当社のメイン事業である「農家の直売所」は、

「農家の直売所」フロー（プラットフォームの仕組み）



1 集荷場に商品を持ち込む



2 タブレットに商品・店舗・価格を入力



3 専用バーコードシールを発券



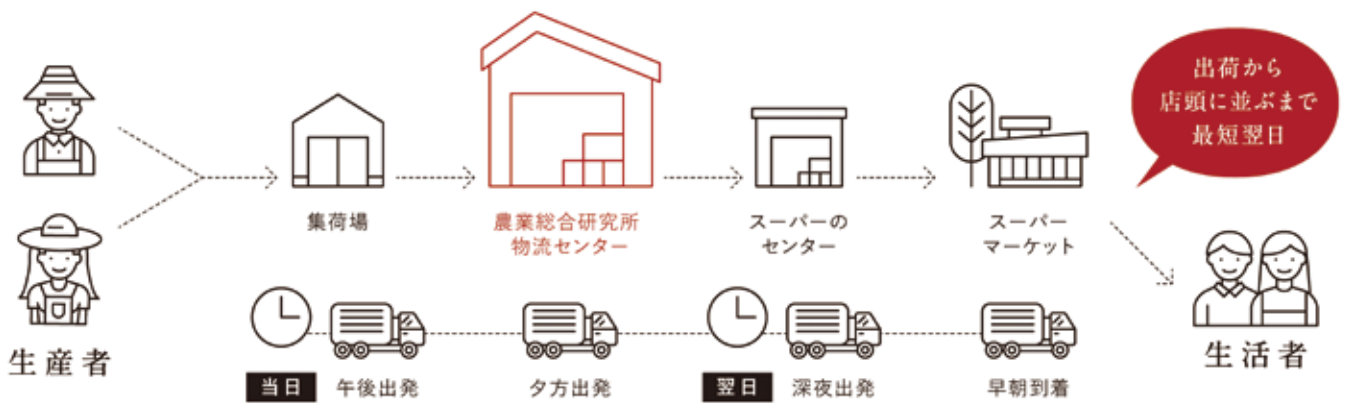
4 袋詰めした商品に専用バーコードを貼る



5 出荷したい店舗の前に商品を置く



6 最短翌朝には店舗に陳列される



生産者のメリット

- 販路拡大による所得増加が期待できる
- 品目・規格・数量など自由に決めて生産できる
- こだわりをもって生産した農産物を“顔の見える”形で生活者に届けることができる

スーパーマーケットのメリット

- 産直コーナーを低コストかつスピーディに導入することができる
- 集客効果による店舗全体の売上げが期待できる
- 商品供給、生産者管理、決済業務などの手間を省くことができる

新鮮な農産物（主に、野菜・果物・花・米）を都市部のスーパーマーケットを中心としたインショップ形式の直売所で委託販売するプラットフォームで、生産者が主体的に農産物を流通できる仕組みです。現在、全国約9,500名※の生産者に登録いただき、全国92カ所※に農産物を持ち込む集荷場を設けています。

これらの集荷場から、東京・名古屋・大阪にある当社の物流センターを経由し、都市部のスーパー約1,700※店舗へ最短1日で配送する、物流を構築しています。

（※2021年3月末現在、直営・提携含む）

生産者にとっては農産物を規格にとらわれず自由に生産し、自ら販売価格や販売先を決めて出荷することにより、所得拡大につながり、生活者にとっては、生産者の“顔の見える”安全安心な商品を購入でき、そして、スーパーにとっても他店との差別化など、弊社も含めて、四方良し

のプラットフォームとなっています。

農家の直売所の特徴である、ITプラットフォームでは、生産者毎に、日別・月間の売上、各スーパー・店舗毎の売上、スーパー毎の出荷品目や出荷量、店舗毎の立地、他生産者の販売価格や市場仕入れの販売売価等、様々な情報を得ることができます。これらを通じて、生産者はメーカーポジションで考えることができ、努力した分だけ収益を上げることができます。また、専用アプリを通じて、お客様からの「ありがとう」がダイレクトに届く仕組みも構築しています。

そして、物流においては、アウトソーシングと自社センターの活用により、原則翌日の朝までにスーパー店頭へ届ける※、物流を構築しています。このことにより、鮮度と熟度の高い商品の提供が可能となります。

（※一部産地除く）

産直卸事業をスタート

市場流通は地域を拠点に大量・安定供給ができる一方で、生産者の想いやこだわりが店頭で見えにくい面があります。そこで、市場外（産直）流通を担ってきた当社が連携することで、より付加価値を提供できると考えました。

実際に当社のスタッフが、産地に足を運び生産者と対話をし、農産物の安全性や品質に関する当社独自のブランドマークを付けるなど“小売店舗で生産者の顔が見える”販売支援を行って

います。この事業を「産直卸」と名付け、2020年10月より本格的にスタートさせました。

「農家の直売所」事業は委託販売事業ですが、「産直卸」事業は当社が生産者等から買い取り、小売店に販売する形となります。「農家の直売所」で構築した物流インフラと、スーパー等の小売店との直口座取引、そして全国の産地ネットワークを最大限に活用し、この「産直卸」事業を加速させていきたいと考えています。



商品の付加価値を見える化（ブランディング）

農総研の卸売商品専用のオリジナルデザインです。
POP、パッケージデザインで「商品の付加価値を見える化」します。
イメージを統一することでブランドを確立。
売り場での一体感が生まれ、お客様の目にも留まりやすくなり、選ばれる商品に。

□ パッケージ



□ POP



□ レシピ



豊作貧乏をなくしたい

どの業界、産業でも相場変動はつきものですが、特に農業はそれに左右されやすく、豊作貧乏、まさに「たくさん作っても、儲からない」という事象が起こります。私たちはこの、豊作貧乏をなくしたいと考えています。例えば、

1. 生産前から需給バランスを管理
=需要に合わせた生産
2. 余剰分は市場へ流通させない
=貯蔵、加工、輸出等にて対応
3. 野菜や果物をより多く食べてもらう
=需要の喚起を行う

など、方法はたくさんあると思います。私たちは、「農家の直売所」をベースに「産直卸」事業など市場外（産直）流通を拡大し、そして、相場価格形成力を高めていきたいと考えています。市場内外を組み合わせることにより、物流、商流、システム等効率化を図り、コスト削減し、青果流通を見える化することにより、公平・公正な流通を構築し、需給を最適化できると考えています。

将来的には市場流通、市場外流通、全ての農産物流通に関わることにより、需給バランスの管理を農業総合研究所が担っていくことを目指しています。

しかしながら、そこに辿り着くまでには、乗り越えなければならないステップがあり、また、私たちだけではできないことであると、認識しています。そのためにも、様々な企業や機関、そして市場等との提携を積極的に進め、農業界を牽引していきたいと考えています。

最後に

ここまで、弊社のビジネスモデルを説明してき

ましたが、設立時のスタート資金は現金50万円だけ、ビジネスモデルなし、仲間なしの何もない起業でした。しかしながら、日本をそして世界を良くしていく為には、農業流通を真剣に考える会社が必要だという考えと、農業を本気で良くしていきたいという気持ちが誰よりも強かったからこそ、今日まで会社を継続することができたのだと思っています。

Passion for Agriculture～農業に情熱を～
私たち農業総合研究所の合言葉です。これからも農業に情熱を燃やし、農業が衰退しない仕組みを、生産者と生活者の皆様とともに確立していきます。

及川 智正（おいかわ ともまさ）



1975年、東京生まれ。東京農業大学農学部農業経済学科卒業。（株）巴商会入社後、結婚を機に和歌山県で新規就農。3年間、きゅうり、ねぎ、米を栽培。2006年、エフアグリシステムズ（株）関西支社長就任。1年間、大阪千里にて青果店を経営。

2007年、農業総合研究所設立（代表取締役就任）。2016年6月、農業ベンチャー初の上場を果たす（東証マザーズ：証券コード3541）。2019年11年より、現職。

静岡県農業信用基金協会

1 静岡県の概要

静岡県は日本のほぼ中央に位置し、海や山、湖などバラエティに富んだ自然を有しており、東は神奈川県、西は愛知県、北は山梨県と長野県に隣接しています。

人口は365万人（平成30年）で、全国で10番目に多い県となっています。

面積は7,777平方キロメートルで、太平洋に面した東西155キロメートル、南北118キロメートルの距離があります。

地勢は遠州灘、駿河湾、相模灘に沿った約500キロメートルの海岸線を南側に、北側は富士山など3000メートル級の山々からなる北部山岳地帯が東西に長い地形を囲み、山地から流れ出た川が、天竜川、大井川、富士川等の河川となって県土を縦断し、海岸に注いでおり、河口部に肥沃な土地

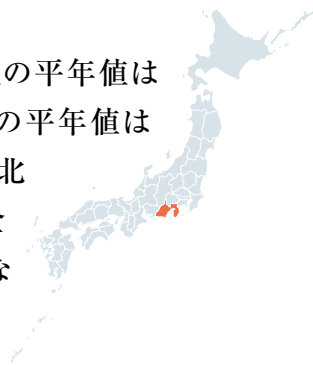
を形成しています。

気候は月平均気温の平年値は16.5度、年間降水量の平年値は2,324mmとなっており、北部山岳地帯を除けば全般的に温暖な気候となっています。

春、夏、秋、冬のはっきりとした気候ですが、特に冬は日照時間が長く温暖で、平地では雪はあまり見られません。

静岡県は富士山や駿河湾、南アルプスの雄大な景色が広がるビュースポットや、しずおか自慢の美味しいグルメスポットなど、楽しめるスポットがたくさんあります。

ぜひ、一度お越しください！



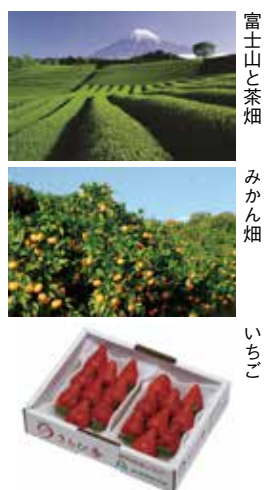
2 静岡県の農業

本県の耕地面積は64,100ヘクタール（令和元年）で、総面積の約8.2%ですが、温暖な気候と変化に富んだ自然環境を利用して多種多様な農産物が生産されています。

平成30年の農業産出額は2,120億円で全国16位となっています。

主要品目は、産出額でお茶とわさびが全国第1位、ちんげんさいとセルリーが全国第2位、みかんが全国第3位となっており、メロンやいちごなどの果実、ガーベラやバラなどの花きも全国上位に位置しています。

地域別では、富士山や伊



富士山と茶畑

みかん畑

いちご

豆半島を擁する東部地区では、北部丘陵地に全県牧草専用地の75%を占める一大草地酪農地帯

が形成されており、箱根西麓では露地野菜、東西の海岸地帯ではみかん類が栽培され、南部平坦地ではいちごや花きなどを中心とした施設園芸、天城山系では山葵など、それぞれの地域特性を生かした生産が行われています。中部地区では、北部の中山間地や牧之原台地における茶の生産、温暖な気候を生かしたみかん類やいちご、全国の上位生産を占めるバラ

セルリー

ちんげんさい

バラ

ガーベラ



の栽培が盛んです。

西部地区は浜名湖北部地域を中心に全国有数のみかん産地が形成されている他、管内全域で100種類以上の野菜が生産され、また、畜産と花きについても本県を代表する産地となっています。

また、静岡県では農林水産物の魅力を活かした新しい加工品を「ふじのくに新商品セクション」として選定し、県農林水産物の付加価値向上を図っており、加工農産物の産出額では全国第1位となっています。

3 静岡県農業信用基金協会の概要

当協会は、常勤役員2名、職員17名（信連からの出向者3名、保証センターからの出向者1名、派遣職員1名含む）で総務部、業務部の2部体制で業務を行っています。

事務所は静岡駅南口徒歩1分！のオフィスビルの中にありますので、新型コロナウイルスが終息しましたら、お気軽にお立ち寄りください。



4 静岡県農業信用基金協会の活動

今年度から保証審査システムの全国統一化の検討が始まりましたが、本県では審査にかかる手続の効率化を目的として、平成27年度から生活資金においてリスク計量化システム・自動審査システムを導入しています。

令和2年12月末現在の保証の状況ですが、全体では、年度初来344億円（前年同月比▲41億円）の保証引受を行った結果、保証残高は2,337億円（同+241億円）となり、うち農業資金は、年度初来35億円（前年同月比▲16億円）の保証引受を行った結果、保証残高は240億円（同▲2億円）となりました。なお、新型コロナウイルス対応の資金については、12月末現在で申込件数170件、申込金額697百万円となっています。

今年度の活動としましては、住宅ローンにリスク計量化モデルに基づいた段階別保証料率の導入を計画し、昨年6月に前取一括保証料率の変更及び同最優遇保証料率の要件緩和を実施するとともに、10月に分割後取保証料率の変更及

び同最優遇保証料率の要件緩和を実施しました。

また、毎年度融資機関向けに開催している研修については、先ず個別にニーズをヒアリングして、具体的な要望や出席する職員の方のレベルを把握したうえで内容を策定し、職員を派遣して研修会を実施するとともに、定期的に役員、管理職が融資機関を訪問して、情報収集及びリレーション強化に努めています。

なお、JA職員の知識習得及び人材育成を目的として、毎年度信連が募集する「JAローン融資担当者保証機関実務研修」「JA農業制度資金担当者実務研修」の受講者を受け入れており、令和元年度は2名、令和2年度は1名の方が協会において研修を受講されました。

今後も農業者等の発展に資するため、また、融資機関の負託に応えていくため、現場の声に耳を傾け、頼られる協会であり続けるよう努力を重ねてまいります。

高知県農業信用基金協会

1 高知県の概要

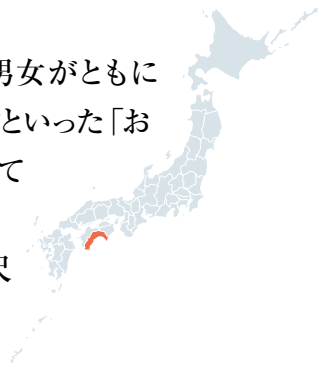
高知県は、北は四国山地で愛媛県と徳島県に接し、南は太平洋が広がる四国南部を東西に長く弓状に擁しております。総面積は7,103km²（全国18位）で、そのうち森林が84%（森林面積割合が全国1位）占めており平地は少ないですが、日本最後の清流といわれている四万十川^{しまんとがわ}や日本一の透明度を誇り^{によど}“仁淀ブルー”で知られる仁淀川^{によどがわ}などの河川が数多くあります。

気候は、年間平均気温や年間日照時間が全国上位の水準にある一方で、年間降水量は3,000mmを超える年もあり、また、台風の襲来も多いところから別名「台風銀座」と言われています。県の人口は34市町村（11市17町6村）で68万9千人（全国45位）、出生数の減少や若年層を中心とした県外流出により減少が続いています。県内JA数は4と

なっています。

高知県には、老若男女がともに食事や酒を酌み交わすといった「おきゃく」文化が根付いており、山や海の幸による郷土料理を大皿（1尺3寸＝約40cm）に盛り付ける^{さわち}皿鉢料理でお客様をもてなし、また招く側も共に楽しみ絆を深めています。

また、自由で豪快な気風は「いごっそう（男性）」「はちきん（女性）」と呼ばれるおおらかな中にも芯の通った県民性を育み、こだわりのある園芸作物や産業技術を生み、「よさこい祭り」に代表される個性豊かな地域の文化を発展させてきました。



2 高知県の農業

本県の耕地面積は27,000ha（令和元年度。全国の約0.6%、四国の約20.2%。）であり、全国的にみても耕地面積は少ないです。

そのような中、冬期の温暖・多照な気候を利用して古くから野菜の早出し栽培に取り組み、昭和30年代以降のビニールハウスの急速な普及により、施設栽培を中心とした野菜園芸が定着し、平成30年度時点の農業産出額1,170億円（全国28位）のうち、園芸品目（野菜、果実、花卉）は932億円と約8割を占めております。特に本県の主要農産物である、なす・生姜・にら・みょうが・ししとう・文旦・柚子は全国1位の農業産出額となっており、当県の農業産出額の約45%を占めております。

なお、近年本県では産官学連携により、「次



高知なす
ハウス促成栽培（10～6月）を中心に生産し、冬春期には全国一の出荷量があります。高知県を代表する主力品目のひとつです。

生姜
しょうがの生産量全国1位の高知県。10月～11月に収穫したあと定温・定湿の貯蔵庫で保存し、一年間を通じて出荷するため、「囲しょうが」とも呼ばれています。



みょうが
ハウスと露地栽培で県内各地で周年生産しています。ふっくらした丸みと色鮮やかな紅色が特長。薬味用に輪切りにすれば、食欲をそそる香りが漂います。

ゆず
黄玉は12月の冬至前を中心に4月頃まで、青玉はハウス栽培を中心に4～9月、露地栽培で7～10月にかけて出荷し、全国一の出荷量があります。





にら
温暖な気候と長年の研究により、多くのにらが栽培・出荷され、その出荷割合は、全国のおよそ4分の1! 肉厚でやわらかく、香りが強いことが特長です。

土佐文旦・水晶文旦
高知県を代表とする特産果実のひとつで、独特の爽やかな芳香とプリッとした食感が特長です。一粒食べると、プリッとした小さな実がはじけて、果汁がジュワッと口いっぱいに広がります。ハウス栽培の「土佐文旦」と「水晶文旦」は10月～12月に、露地栽培の「土佐文旦」は主に1月～4月にかけて出荷します。



ししとう
冬春期にはハウス促成栽培、夏秋期には雨よけ・露地栽培の産地をリレーして周年生産し、全国一の出荷量があります。特に冬春期の生産量は全国の約80%を占めています。

世代型こうち新施設園芸システム」として、既存型ハウスへの環境制御技術の導入と、環境制御機器を標準装備した次世代型ハウスの整備等を本格的に普及推進しており、最近では更なる生産性・効率性向上のため、「IoP (Internet of Plants)」をコンセプトとして、植物の生理情報をリアルタイムに「可視化」し、AIなどを利用して栽培管理や収量予測および省力化に活用する新たな農業の研究開発に取り組んでいます。

3 高知県農業信用基金協会の概要

当協会は、役員11名（理事8名、監事3名）うち常勤役員1名、職員8名で、総務課・業務課の2課制となっています。常勤役員は学識経験者として高知県信連出身者が就任し、職員は全員プロパーとなっています。

役職員とも基金協会の存在意義・役割を常に意識した、利用者本位の業務運営に取り組んでいます。



4 高知県農業信用基金協会の活動

当協会の保証引受は平成18年度をピークに減少し、特に住宅ローンについては他社競合により保証シェア率は平成24年度には50%を割り込むまでになりました。このため、他保証機関を意識した保証料率体系の見直し、保証要件の緩和等をJAとも協調しながら行い、住宅ローンの保証シェア率は徐々に回復基調になりました。また、当年度は住宅ローンについてJAによる住宅業者への渉外活動の強化も相まって、保証引受は近年にない伸びを見込んでいます。

農業資金においては、無担保無保証人による保証の限度額の拡大、融資機関による積極的農業融資推進及びJAバンクによる保証料助成事

業（農業近代化資金）により増加傾向でしたが、昨年からの新型コロナウイルス感染症に伴う投資控えから減少の見込みです。

求償権の回収においては平成28年度に導入したコンビニ収納サービスが、回収促進に繋がっています。

いまだ新型コロナウイルス感染症の収束が見えず、県内農業を取り巻く環境も依然厳しい状況にあります。このような情勢のもと、新型コロナウイルス感染症の影響により農業者等の資金繰りに支障が生じないよう、親身な対応、実情に応じた最大限の配慮で適時適切な保証を行ってまいります。

北海道林業の現状と展開方向について

北海道林業信用保証相談員

北海道森林組合連合会 総務指導部長 遠藤芳則

北海道は戦前、戦後と豊富な天然林資源を背景とした林業を主要な産業として、多くの地域が成り立っていましたが、昭和50年代後半を境として天然林の伐採量は減少し資源も枯渇し始めました。

この天然林に代わって北海道林業を支えたのは、戦後、炭鉱の坑木として利用されたカラマツと北海道の固有樹種であるトドマツ、アカエゾマ

ツ、そして北海道南部で植林されてきたスギなどの人工林材です。

北海道の人工林は戦後から本格的に造林が始められたこともあり、以前は間伐材の有効利用を中心として木材生産を行ってきましたが、近年は伐期を迎えた林分も多くなり本格的な利用期に入ってきました。

① 北海道林業の現状

北海道の森林面積は554万ha、森林率は71%、素材生産量は395万m³となっています。林種別では、人工林30%に対し天然林約70%と天然林面積が多くを占めていますが、直近5か年は人工林の伐採が約90%を占めており、人工林材中心の素材生産といえる状況です。

北海道産材の利用ですが、カラマツについては梱包材など産業用資材が8割程度占めていますが、トドマツ類は6割程度が羽柄材などの建築材として利用されているほか、従来カラマツ主体であった合板材利用がトドマツにも広がってきています。

また、近年はカラマツ・トドマツ・スギとも合板用及び製材用として、丸太の本州方面への移出及び近隣諸国への輸出も増加傾向にあります。

北海道の木材流通の特徴ですが、一部付加価値の高い原木以外市場売りはなく、山土場から工場へ直送されており、価格も需要者と供給者の相対で決められています。

こういった形態により流通コストの削減を図っ

ているほか、多種多様なサイズを樹種別に注文に合わせて供給することで需要者側の要求にえています。

北海道産材の需要の高まりにつれ伐採量も増加傾向にあることから、人工林資源の循環サイクルを確立するための再造林が重要となっており、北海道独自の再造林への助成も相まって1万haの伐採に対し人工林造林面積は9千haと資源循環が図られつつあります。



コンテナ苗を使用した植付作業

2 北海道産材利用の展開方向

北海道の人工林材が本格的な利用期に入ってきたことから、木材の付加価値を上げるための取組みが始まっています。

カラマツについては、産業用資材のほか、建築材の利用も進めています。

従来は、ねじれやヤニの問題をクリアし強度面の優位性を生かすために集成材として建築利用を促進してきましたが、これに加えて「コアドライ」というねじれを抑える乾燥技術が開発されたことから、無垢材として利用が可能となりました。

これまで集成材のみであったカラマツ建築材



集成材を利用した都市部での木造建築事務所
(北海道森林組合連合会 札幌市中央区)



カラマツ コアドライを使用した大規模建築物
(当麻町役場 議場)

の選択の幅が大きくなり、強度を生かした規模の大きな建築物への利用も拡がりを見せつつあります。

また、CLTの基準強度にJASの樹種群や等級区分に応じて、より高い強度が追加されたことからカラマツ・トドマツの強度を基準として活用可能となり、強い区分の樹種として構造用としての利用が期待されています。

都市部においてもカラマツ・トドマツ集成材やCLTを利用した中高層や大規模建築物での需要を拡大させるための取組みを始めています。

3 林業信用保証制度の活用

これまでの北海道産木材の利用を増やす取り組みから、最近では、付加価値をつけるための取組みが始まりましたが、これに対応した生産設備の拡充や増設、また大径化してきた木材を効率よく挽くことのできる工場設備などは現時点において充実しておらず、これから導入促進を図る必要があります。

また、少子高齢化により労働力が不足している造林現場は、IoTや自動化技術を取り入れて省力化を図るなど、北海道林業活性化に向けて林業信用保証制度を活用し、資金需要に応えることができるような制度設計をこれからも期待しております。

全国漁業信用基金協会 青森支所

① 青森県の紹介

青森県は本州の最北端にあり、人口は約123万人、東は太平洋、西は日本海、北は津軽海峡に面し、懷に陸奥湾を抱き、南には秋田県にまたがる世界遺産白神山地、十和田八幡平国立公園をはじめ奥羽山脈の北端である八甲田山などの自然環境に恵まれており、西側の津軽地方と東側の南部地方では異なる気候や文化、風土となっております。

津軽地方は特別豪雪地帯に指定されています



青森りんご

青森ねぶた祭



八戸三社大祭



三内丸山遺跡



《写真提供：青森県観光情報サイト「アプティネット」》

が、春は「弘前さくらまつり」、夏の「青森ねぶた」、「弘前ねぶた」、「五所川原立佞武多」、などが有名です。

南部地方での冬は奥羽山脈から乾燥した寒風が吹き下ろし晴天の日が多く、春を告げる祭り「えんぶり」やユネスコ無形

文化遺産に登録された夏の「八戸三社大祭」などが有名です。

本県の産業は、全国有数の農業産出県であり、リンゴ、ナガイモ、ニンニクが全国一の生産量となっております。

また、県内では縄文時代の遺跡が多く、三内丸山遺跡（青森市）やニツ森貝塚、是川遺跡（八戸市）などで住居跡や土器および土偶が発見されております。

② 青森県の水産業

青森県は、日本海、津軽海峡、太平洋と中央には大型の内湾である陸奥湾を抱えており、海岸線が約797キロメートルあり、日本海では対馬暖流が北上し、その一部は津軽海峡に入って津軽暖流となり、太平洋を南下しています。

太平洋の沖合では、この津軽暖流と北からの親潮（寒流）、南の黒潮からの流れがぶつかり合い、プランクトンがたくさん発生し、多くの魚が集

まる豊かな漁場がつけられます。

暖流に乗って北上してくる魚にはスルメイカ、マグロ、ブリ、マサバなどがあり、寒流に乗って南下してくる魚にはサケ、マダラ、ホッケなどがあります。

また、周囲を下北半島、夏泊半島、津軽半島に囲まれ、大きなシケが少ない陸奥湾では、ホタテ貝の養殖が盛んで、全国有数のホタテ貝の生産地となっています。

しかし、近年の不漁等により、県内の水揚げ金額はピーク時1千億円を超えていたものが、令和元年度実績では417億円となっており、内訳はホタテ養殖が135億円、イカ類が102億円、マグロが25億円などとなっております。

ホタテ貝の水揚げ



大間のマグロ
(200kg超)



《写真提供：JF青森県漁連》

3 青森支所の概要

- 住所：青森市安方一丁目1番32号
- 電話番号：017-723-2714
- 担当理事：奈良岡修一
- 担当監事：清藤 進
- 会 員 数：463会員
- 出資総額：2,415,550千円
- 保証引受：172件 915,118千円
- 保証残高：860件 4,282,843千円（令和2年3月31日現在）
- 役職員数：8名



4 青森支所の今後の取り組み

当支所は、保証制度の安定・維持発展を目指し、令和2年10月1日をもって「全国漁業信用基金協会」との合併を果たし、青森支所として本県の水産業の発展に尽力いたす覚悟であります。

本県水産業を取り巻く環境は、漁場資源の劣化、漁撈コストの高騰、漁業従事者の高齢化等に加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響により引き続き厳しいものと思われ、このような中で、当協会の業務においても、会員が必要とする資金の融通を円滑にし、漁業者の経営並びに生活の維持安定を持続的に図るため、積極的に取

り組んで参る所存であり、特に、設備投資促進に係る国の事業である、浜の担い手漁船リース事業や競争力強化型機器等導入事業、並びに無保証人型事業等においては、積極かつ効果的に活用するとともに、従来から実施している本県独自の沿岸漁業推進関連資金並びに令和2年度から新たに対応した新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急対策沿岸漁業推進関連資金の漁業者支援型資金についても、弾力的に取り組む等、これまで以上に地域に密着し、地域の実態を見据えた事業展開を目指します。

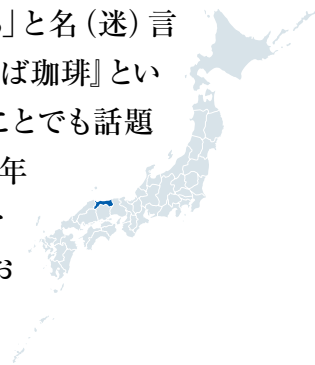
全国漁業信用基金協会 鳥取支所

① 鳥取県の概要

鳥取県は中国地方の日本海側、山陰地方の東側に位置しています。東西は125km、南北は62km、面積は3,507km²と全国で41番目の広さで、人口は全国最少の55万人です。鳥取県はよく隣県の島根県と間違えられますが、左が島『根』、右が『鳥』取で『ねっとり』と覚えてください。

さて、鳥取といえば、平成26年当時、47都道府県で唯一スターバックスコーヒーの店舗が存在しなかったことから、県知事が「スタバはないけど

日本一のスタバがある」と名（迷）言し、これをもとに『すなば珈琲』という喫茶店が開店したことで話題になりました。令和2年12月末現在で10店舗を構える喫茶店となっており、スタバが鳥取に開店した現在でも根強い人気があります。



② 鳥取県の水産業

海岸線133kmの約6割は砂浜域となっており、県魚であるヒラメの好適な生息域となっています。また、県西部には中国地方最高峰となる標高1,729mの大山^{だいせん}があり、山頂付近にあるダイセンキャラボクの群生地は国の特別天然記念物に指定され、また、標高800mから1,300mは西日本最大のブナ林が広がり、広大なブナ林に育まれて栄養を豊富に含んだ良質な伏流水や湧水が美保湾へと流れ込むことで好漁場の形成につながっています。

鳥取沖では、対馬暖流と水深200m以深に分布する日本海固有冷水がからみ合い、プランクトンや小魚などの餌が豊富なため、それらを食べる多種多様な魚種が集まってきます。対馬暖流が影響する海表面から水深100mまでの表層ではアジ、サバ、イワシ類がまき網漁業によって漁獲され、日本海固有冷水が影響する水深200m以深の海底付近では、松葉がに（ズワイガニ）やハタハタ、アカガレイなどが沖合底びき網漁業で漁獲されています。

全国で水揚げされるカニの約半分が鳥取県内の漁港で水揚げされており、当県はカニの水揚量及び消費量が日本一であることを受けて、カニの

シーズンは県名を「蟹取県」に改名するなど水産業に力を入れています。特に松葉がにには平成27年に大きさ・重さ・品質など5つの基準を満たした最上級品をトップブランド『特選とっとり松葉がに^{いつきぼし}五輝星』と命名しています。平成30年の初競りでは1枚200万円の価格がつけられ「競りで落札された最も高額なカニ」としてギネス世界記録に登録され、さらに翌年には1枚500万円の値が付き、世界記録を更新したことで大きな話題となりました。

また、県と漁業者が一体となって水産物のブランド化に力を入れており、鳥取の夏^{なつき}を代表する旬の味覚である天然の岩ガキを『夏輝』と命名。甘みが強く、身は肉厚で加熱しても硬くならないことが特徴的なケンサキイカは、漁獲後墨袋を取り除くことで汚れることなくきれいなまま出荷・調理ができるようにしたものを『白輝姫^{しらきひめ}』と命名。年間の水揚量が全国トップクラスであるハタハタは、脂がのっている全長20cm以上のものを『とろはた』と命名するなど付加価値の向上に努めています。

全国7位（令和元年）の水揚量を誇る境漁港は日本海側で最大の漁港で、その北側に位置する

島根半島が天然の防波堤の役割を果たすことで古くから良港として利用されています。カニ籠漁船によるベニズワイガニの水揚げ量は長年に亘り全国1位であり、大中型まき網漁船による生クロマグロも全国トップクラスの水揚げ量を誇ります。背後地には水産加工業が発展しており、片側2車線の国道が高速道路までつながっており、利便性もよいことから、日本海で操業する全国の漁船が寄港し水揚げする基地となっています。平成26年9月から水産庁の計画の下、総事業費208億円をかけた高度衛生管理型市場への施設整備を実施しています。令和元年6月には主要施設の完成に伴い新市場の一部が供用開始され、これに合わせて漁港見学ツアーがリニューアルされ、年間約1,000人が訪れました。令和5年度に全施設の整備完了を

見込んでおり、境漁港・市場の更なる発展が期待されています。

当県では養殖事業にも力をいれています。

平成23年には東日本大震災を機にニッスイグループ会社が境港に拠点を移し、ギンザケの『境港サーモン』などを養殖しており、生産量も年々増加しています。また、平成29年から県とJR西日本が協力し、陸上養殖による生食できるサバ『お嬢サバ』を生産しています。

特選とっとり松葉がに五輝星 いつきぼし



ベニズワイガニ

3 鳥取支所の概要

- 住所：鳥取市東町1丁目271番地
- 電話：0857-26-8392 Fax：0857-29-4627
- 会員数：82名
- 出資総額：634,950千円

- 保証残高：4,041,070千円
- 担当理事：景山一夫
- 担当監事：長戸 清
- 職員数：3名 (令和2年12月末現在)

4 鳥取支所の活動

令和2年度は新型コロナウイルスが全国で猛威を振るいましたが、鳥取県水産関係者からの感染の報告は今のところありません。しかしながら、令和2年度前半は流通が停滞したことにより

魚価が低迷し漁業関係者に大きな影響を与え、農林中央金庫の利子助成及び国の保証料助成を適用した運転資金の保証が増加しました。また、国の漁船リース事業による漁船建造資金の保証を実施した結果、令和2年度は過去最高の保証引受額を見込んでいます。

一方で、漁業者の高齢化や担い手不足で年々沿岸漁業者からの設備投資に係る保証は減少しており、支所としても鳥取県水産業の存続に各関係機関と協力して新規就業者の確保や担い手不足に対応していき、漁業の発展とよりよい保証制度を推進してまいります。



クロマグロの競り

リース船の竣工式



静岡県農業共済組合 (NOSAI静岡)

1 静岡県の概要

静岡県は、日本のほぼ中央に位置しています。太平洋に面して東西に広がっており、8都府県にまたがる東海道新幹線の計17駅のうち、6駅が静岡県にあります。

全般的に温暖な気候で、平地ではほとんど降雪がありません。北に日本一高い富士山、南に日本一深い駿河湾を有し、日本一の湧水量を誇る柿田川や、淡水と海水が入り交じる浜名湖など、多様性に富んだ自然環境です。

食文化や地形・地質など、東日本と西日本の様々な境界線が存在するのも静岡の特徴です。例えば、電気の周波数は東西で異なりますが、静岡県内にある富士川を境に東が50Hz、西が60Hzとなっています。

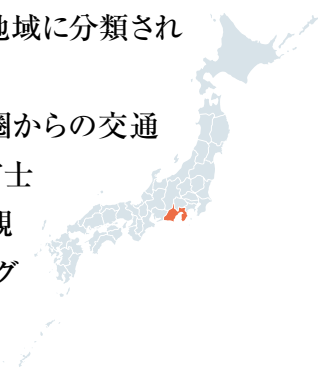
県内は旧国名で伊豆国、駿河国、遠江国という三つの国から成り立っており、現在はそれぞれ

東部、中部、西部と3地域に分類されます。

東部地域は、首都圏からの交通アクセスが良好で、富士山や伊豆半島などの観光地があります。B級グルメの「富士宮やきそば」も有名です。

中部地域は、富士山静岡空港や清水港、東名・新東名高速道路など、世界や日本各地への交通インフラに恵まれています。「静岡おでん」や「安倍川もち」などの名産があります。

西部地域は、自動車や楽器などの製造業が盛んな地域で、多くの創業者や研究者を輩出しています。消費量トップクラスの「浜松ぎょうざ」が話題となっています。



2 静岡県の農業

茶、みかん、わさびは、静岡県を代表する農産物です。

茶の有名産地は県内各地にあります。産地ごとに味わいや香りが異なるブランド茶が生産されています。生産量はこれまで全国1位でしたが、2019年は生産量2位だった鹿児島と逆転して2位となり、シェアは約30%となります。今後、生産技術とともに品質を高め、静岡茶の価値を向上させていくことが期待されています。

みかんの生産量は全国3位で、シェアは約15%です。産地は県内各地にあり、各地のみかんがそれぞれ、骨の健康維持に有効とされる「β-クリプトキサンチン」や高血圧の改善効果が期待される「GABA」を含有する機能性表示食品として

登録されています。

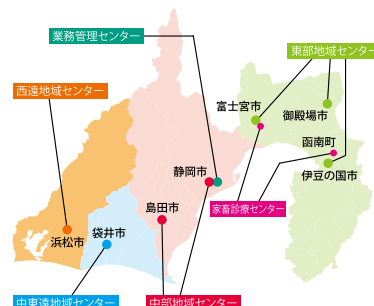
わさびは静岡県が栽培発祥の地であり、全国シェア約80%、生産量1位、東部や中部で主に生産されています。根と茎を細かく刻み、酒粕に漬けた「わさび漬け」が加工品として全国に知られています。

また、芳醇な香りと美しい網目の高品質な温室メロン、「紅ほっぺ」「章姫」「きらび香」などの品種が静岡で生まれたいちごのほか、全国1位で約40%のシェアをもつガーベラや、全国2位のばらなどの花きの施設園芸もさかんに行われています。

さらに、富士山麓を中心に酪農地帯が広がっており、生乳の地域ブランド化を目指すとともに、銘柄牛や銘柄豚の開発もすすめられています。

3 静岡県農業共済組合 (NOSAI静岡) の概要

- 所在地: (業務管理センター) 静岡県静岡市葵区鷹匠2丁目15-13
- 電話番号: 054-251-3511 (代表)
- 理事: 14名
- 監事: 3名
- 職員数: 122名 (2021年3月末現在)



4 静岡県農業共済組合 (NOSAI静岡) の活動

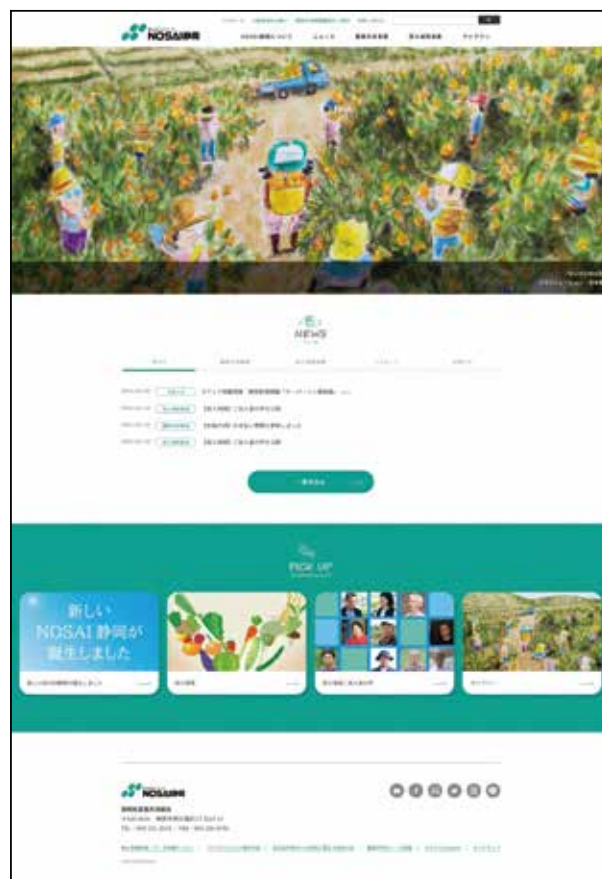
農業保険制度は、「農業共済制度」と「収入保険制度」からなる国の制度です。自然災害や不慮の事故、価格低下などにより農業者が受ける損失を補てんし、農業経営の安定と農業生産の継続と発展を目的としており、農業災害対策の重要な柱となっています。

2021年1月、県内3つの農業共済組合と連合会がひとつとなり、「静岡県農業共済組合 (NOSAI静岡)」が発足しました。これまでの組合を「地域センター」と改称し、県内に4つの地域センターを配置しました。また連合会は、業務管理センターと改称し、地域センターをサポートしています。

新しいNOSAI静岡の発足に伴い、Webサイトを刷新し、「のうさいChannel」を開設しました。

Webサイトは、わかりやすく親しみやすいコンテンツ構成を意識し、季節に応じて更新する、静岡らしい農風景を描いたイラストをトップページに配置しています。

「のうさいChannel」では、Twitter、Facebook、Instagram、LINE、YouTube、農業共済新聞などの様々なメディアを通じて「農業者との新しい繋がり」をつくることを目的に、収入保険加入者の声の動画配信などの情報発信をしています。



WebサイトURL: <https://www.nosai-shizuoka.or.jp/>



里山の管理と 資源利用への提案

神戸大学森林資源学研究室教授 黒田慶子

環境保全の上で森林の重要性に注目が集まるが、放置森林の管理再開は容易に進むものではない。補助金は管理を再開する駆動力にはなるが、SDGsの観点で森林を持続させるには、森林所有者の収入を増やして管理意欲を出していただくことが非常に重要である。筆者は病虫害の研究と森林管理の指導に長年携わってきた経緯から、持続的な管理には本気の目標と戦略戦術が大事なことを痛感している。日本の国土の3分の2を占める森林の植生や健康状態は、地域ごとに異なり、「適正に間伐する」「病虫害を適宜防除する」のような指示は役に立たない。資源利用という意識のない団体への管理委託では、むしろ悪影響がある。人工林には様々な補助制度があるので、本稿では里山の管理を中心に将来への提案をしたい。

農家へのお願い…放置林の将来

昨今の森林管理不足は、林業を営む「林家」の課題ではなく、実は「農村集落」の課題である。農村を取り囲む里山には昔の薪炭林やアカマツ林（マツ枯れ後の広葉樹林含む）がある。統計上は天然林・天然生林とされるが天然の林ではなく、人の手により長年管理されてきた林で、本稿では里山林（里山二次林）と呼ぶ。人工林に匹敵する広大な里山林の所有者は、農村集落や農家で、昔は燃料や肥料（落ち葉）など生活や農業に不可欠な資源生産の場所であった。しかし1950年代から利用がなくなり、一部にはスギやヒノキが植栽されたが材価が低下

し、里山は「不要なのに固定資産税がかかる邪魔者」になってしまった。

人の手で管理されてきた里山林は、放置しても原生林には戻らない。里山林の植生調査に伺うと、所有者から「どうすれば良いのか」と問われるが、今後の計画のためには、まず伝統的な管理方法について知っている必要がある。薪炭林では、20-30年程の周期で小面積ずつ皆伐し（写真1）、



（写真1）今も続く炭焼き用クスギ林管理
兵庫県川西市

切株からの芽生えで樹木を再生させる「萌芽更新」を続けてきた（写真2）。抜き伐り（間伐）で



（写真2）クスギの切株
からの萌芽

ではなく小面積を全部伐るのは、地表を明るくして次世代の木を

育てるためである。その定期伐採を半世紀前に中止した結果が今の暗い林で（写真3）、地面



（写真3）約60年生の旧薪炭林（兵庫県丹波篠山市）

には陽が差さず、新たな芽生えが育っていない。田畑を日陰にするほか、田畑を荒らす野生獣類の隠れ場所ともなる。近年は大径のクヌギやコナラが枯れる伝染病（ナラ枯れ）が広がり、家屋などへの倒木の危険性が高い。今実施すべきことは伐採によるリセット、つまり若齢林化である。温暖多雨の日本（北海道除く）では、放置すれば人も踏み込めない鬱蒼とした森になりやすく、急峻な地形なので災害の危険が増す。とはいえ薪炭を使う生活には戻れないので、今の生活にあった伐採木の利用について考え、里山管理の目標を新たに作る必要がある。

スタジオジブリの「となりのトトロ」に描かれている農村の景色は、時代設定の1950年代ではな



（写真4）「となりのトトロ」に描かれた放置里山制作当時の1980年代の景色（利用許可画像）

く制作当時の1980年代のものである（写真4）。放置された里山の大木や、繁茂して田畑を日陰にしている様子を「理想の里山」と誤解されるもととなった。近年の里山整備では下生えや細かい木を伐っているが、それでは次世代の若木が育たず、ナラ枯れを助長して森林は持続しない。日本は北米や欧州の寒い地域（高緯度地域）とは樹種も成長速度も異なり、スイスやドイツの手法をそのまま手本にできないことにも気づいて欲しい。

森林の「資源」とは

「木材は安くて伐っても赤字になる」といわれる。そこには、「どうせ売れない」という諦めがないだろうか。現在の広葉樹林の蓄積は非常に多いが、ナラ枯れによる大木の損失が急激に増えている。筆者は、薪としては使い切れない大径木が増えたことを逆手にとって、木材としての利用に取り組んでいる。里山は燃料の山だから良い木は無いと言われるが、そんなことはない。農村で木材生産に無縁であった地域が多いので、資源の価値が見えないのだと思う。広

葉樹材の価格は樹種や材質により幅が広いが、10～20万円/㎡（丸太、板材）のあたりで、針葉樹よりも魅力的な価格である。

家具やフローリングに使われる木材は主に広葉樹材で、今、その大半は輸入材である。日本にも同様の材がたくさんあるのに、北海道など一部の地域を除いて山から出荷されないのである。輸入材のオーク（櫟：ミズナラ、クヌギ、コナラ）、チェリー（桜）、ウォールナット（クルミ）、ビーチ（樺）、メープル（楓）は、括弧書きの日本産種に対応する。温暖な日本の森には欧米よりも多数の樹種が生育し、良質材の木としてエノキ、ケヤキ、クスノキ、キハダ（樹皮を生薬に使用）も里山に多く見られる。広葉樹人工林がある北米では、品質のそろった材を大量に供給するので、日本の企業は輸入を続けてきた。しかし、材価格の上昇や、安定した輸入への不安から、一部の企業が国産広葉樹に目を向けつつある。国内の製材関係者は「（北海道以外の）国産広葉樹は品質が悪い」というが、国産広葉樹は樹種が多く、それらの癖に慣れていないことや、低質材が混じることへの警戒であろうと捉えている。現状では、家具などに使える材が、価格が10分の1以下のパルプや薪になっており、大変もったいない。本来、「適材適所」とは人材配置のことではなく、「木材はその特徴にあった使い方をしなさい」という格言である。里山の木の価値が正當に評価されたら民有林の新たな収入にでき、同時に里山林の管理再開につながる。急斜面の伐採は難しいが、民家や畑に接する森から実施することを提案している。

今後の課題は里山材の流通促進である。大

半の地域では木材利用の経験が無いが、家具製造が地場産業という地域から推進して手本ができると、流通の流れが作れると考えている。もう一つの課題は、伐採木がまとめて安値で売却される点である。大径木や銘木（工芸的価値のある木）だけでなく、上述の多種の樹木に材木としての価値がある。販売先を想定せずに伐採・製材しては有利な売却は難しい。家具会社の希望する樹種や量の要望に答えるには、森林の在庫の把握（どこにどんな木があるのか）が不可欠である。筆者が取り組むのは、森林内で樹幹に電子タグを着けて樹種や太さなどの情報をデジタル記録し、カタログとして提供する方法である。伐採前に買い手を見つけることや、少量多品目の広葉樹を量的に集めて販売することを目論んでいる。四国の上勝町で成功した「葉っぱビジネス」とも共通する部分がある。古い商習慣では無理だったことが、電子情報の利用を含めた工夫から可能になることに、ぜひ気づいていただきたい。

無形の資源…

森の恵みを広くとらえる

森林によっては、雨量や土壌の関係で資源量が少ない場所もある。そこでは木材販売による収入化は期待できず、まとめて伐採すると次世代林の再生に時間がかかることになる。マツ枯れ跡地によく見られるが、そのような地域では別の視点で森林資源の使い方を検討したい。つまり「無形の利用」である。ガイド付きの森林散策、ハイキングや野遊びの指導、農業体験や農家民宿と組み合わせた森林体験、ジビエ（野生

里山の管理と資源利用への提案

獣肉の料理)の提供などが挙げられる。重要なことは、地域外(都会)からの来訪者の消費を、地域の収入にする仕組みである。薪を無料で知人に分けたり、所有林での自由な伐採を許可しているのを見るが、それは「里山は無価値」という認識だからだろう。しかし多様な森林活用によって地域外から滞在者を呼び込めたら、それを財源にして里山管理を続けられる。過疎化や耕作放棄地の拡大に歯止めをかける一つの案として自然ガイドという仕事を作り、UターンやIターンを推進してはどうだろうか。コロナ禍を経験した今は、個人や家族単位の野遊びが流行りつつある。都会の人々は自然についての知識が不十分になっているため、安全な森林散策にはガイドが必要である。自然ガイドの養成に力を入れることで、観光資源として魅力のある森林への誘導を目指すことができる。

だれが管理を担うのか

田畑や森林は、その所有者が生産物を売って収入を得ることだけではなく、環境保全や国土保全の面で大きな役目を果たしている。所有者以外の人々も様々な恩恵をうけているのである。生物多様性(種の多様性)の豊かな場所は、里山から田畑の畦にかけての場所、つまり人が昔から資源を使いつつ管理してきた場所である。薪炭林で若木の多い林は地面が明るく、カタクリやランの仲間など山野草や生薬類の生育に適した場所だった。近年の里山林は茂りすぎて暗くなり、様々な生物の生息に適さなくなって、絶滅危惧種の増加にもつながっている。森林に依存する生物は「人間も含めて」多種多様である

が、森林の状態が変わってから慌てても元には戻せないのである。

森林の管理義務はもちろん所有者にある。しかし、上述のように公益的な役目が多いこともあって行政によるサポートが行われてきた。都道府県には林務課があるが、林業地ではない市町村には森林の専門職員はほとんどいない。府県の専門職が全市町村の森林管理の指導を担うことはできないので、いろいろ勘違いがあり、管理方針が具体的に定まらない地域が多いのが現状である。農地管理とは大きく異なるので、少しでも早く林務部署の設置をお願いしたい。森林の今後の動きが見えて、トリアージ(優先順位を決めること)が出来る人材が必要であり、そこさえ押さえたら、里山は地域の宝の山に転じるのである。森林環境譲与税を上手く将来のために生かせるかどうか、その瀬戸際にある。

黒田 慶子 (くろだけいこ)



1956年奈良県生まれ。京都大学大学院農学研究科林産工学専攻、1985年農学博士。森林総合研究所において病虫害および森林管理・保全の研究担当を経て、2010年より神戸大学農学部教授。日本森林学会会長、日本木材学会理事、大日本山林会理事などを歴任。2019年より農林水産省独立行政法人評価有識者会議農林漁業信用基金部会委員。著書に「森林病理学」「ナラ枯れと里山の健康」など。

農林漁業信用基金の 令和3年度の 業務運営方針について

農林漁業信用基金では、令和4年度までの中期目標・中期計画の達成に向けて取り組んでいるところですが、令和3年度においては、以下の重点事項に取り組むこととしています。

1 農業信用保険業務

- 今年度の保険料率は据え置きですが、公庫転貸資金に係る現行の資金区分について、事故率等の状況を踏まえ検証していきます。
- 部分保証等、基金協会と融資機関との適切な責任分担を図る措置について、基金協会にも十分にご説明しながら、農林水産省に必要な協力を求めています。
- 引受から期中管理における今後の教訓を整理した「カルテ」を作成し、基金協会に情報提供（意見交換会を開催）していきます。基金協会の協力も得ながら、カルテの分析向上を図っていきたいと考えています。
- 求償権の回収について、サービスの有効な活用方法や基金協会の負担軽減について検討し、情報提供を行っていきます。

2 林業信用保証業務

- 保証料率等について、下記の通り変更することとし、令和3年10月1日より施行いたします。
- 保証料率について、従前の3区分を廃止し、制度資金に係る料率は年0.15%～1.35%、それ以外は0.20%～1.80%の2区分にする。
- 保証割合について、原則80%保証とし、100%保証の対象は、災害復旧等に必要資金及び制度資金に係る保証とする。
- 一被保証者当たりの保証の最高限度額を6億円にする。
- 既往契約についての上記変更の適用は、個別に協議して決める。
- 関係者の皆様には、今後、十分に説明を行ってまいり所存です。

3 漁業信用保険業務

- 令和3年4月より、新たに、特定の災害被災者に対し、基金協会が保証料率を一定以上引き下げた場合に、保険料率を引き下げる措置（災害特例保険料率）を開始します。
- 基金協会と融資機関との責任分担のあり方について、基金協会とともに検討の上、農林水産省の協力を求めています。
- 事故カルテや回収事例について、基金協会等との意見交換を行いながら、業務の検証等をしていきます。

※ 当基金は、令和3年度においても引き続き、基金協会や融資機関等、関係者のみなさまと積極的にコミュニケーションを図りながら、透明性のある業務運営を行っていく考えです。

今年度、新型コロナウイルス感染症による影響がどのようなものになるか、見通しが難しいところですが、当基金といたしましては、ウェブ会議などの新たな業務手法も柔軟に活用しながら、関係者のみなさまとの意見交換等に取り組んでまいりたいと考えております。



愛宕トリビア

前号でご案内いたしましたが、当信用基金は令和3年1月より東京都千代田区内神田から港区愛宕に事務所を移転しました。

移転前のコープビルがあったあたりは、かつては「鎌倉河岸」と呼ばれる荷揚げ場でした。江戸城の築城や徳川家康入城後の改修工事などの建築資材を、この近辺で荷揚げしたなかで、鎌倉からの石材が多かったことから、「鎌倉河岸」と呼ばれるようになったそうです。昭和30年頃まで河岸が実際に残っていたといわれ、「鎌倉橋」として橋の名前にその名残があります。

鎌倉橋から神田駅方面は新橋と並ぶサラリーマンの町です。昼食はもちろん、仕事帰りに一杯、というときにとてもお世話になりました。

さて、新しい事務所の所在地の「愛宕」は「あたご」と読み、町域の大部分を占めている愛宕山の名前に由来すると言われています。

愛宕山の頂には火防の神・愛宕権現が祀られている愛宕神社があります（当ビルから徒歩約5分）。標高は約26メートルで天然の山としては東京23区の最高峰で、かつては頂上から東京湾や房総半島まで眺望できたようですが、現在は、ビル群に囲まれた都会のオアシスのようです。また、愛宕山にはNHKの前身である東京放送局があり、大正14年（1925年）に日本初のラジオ放送が開始され、現在はNHK放送博物館があります。

愛宕神社は防火を司る神様として有名で、「火^ひ遇^{のようじん}要^{よう}慎^{じん}」と書かれた火伏せ札を台所などに貼ると御利益があるといわれています。

愛宕神社は全国に約900社あるといわれており、その総本宮は京都市右京区にあります。また、福岡市西区の愛宕神社と合わせて「日本三大愛宕神社」といわれています。



総本宮の愛宕神社は、大宝年間（701～704年）に創建され、1300年余の歴史があります。保元の乱など日本史の舞台として有名ですが、中でも、天正10年（1582年）5月、いわゆる本能寺の変の直前、明智光秀が愛宕神社にて連歌の会（愛宕百韻）を催し、その時に「時は今 あめが下しる 五月かな」の発句を詠んだことはよく知られています。

一方、東京の愛宕神社は、慶長8年（1603年）、江戸に幕府を開く徳川家康により防火の神様として祀られました。現在、各地に愛宕神社が祀られているのは、江戸時代、各藩武士が参勤交代の際に、これを地元を持ち帰ったことに由来しているのではないかとわれています。また、神社の正面には急な石段（男坂）があり、その石段は「出世の石段」（写真参照）と呼ばれています。その由来は、讃岐丸亀藩の間垣平



九郎が将軍家光の命により馬でこの石段を駆け上がり、出世したという故事にちなみます。斜度が40度もある石段を馬で駆け上がるのは不可能に思えますが、明治以降も3人が達成した記録が残っているそうです。

また神社では、運が良いと、マスコットの白猫と三毛猫に出会えるようです。筆者は残念ながら会えませんでした。皆さん、足を運んでみられてはいかがでしょうか。（F）

信用基金の動き

-  **2/24,3/4** 運営委員会を開催し、業務方法書の変更及び令和3年度年度計画について審議。
-  **2/24** 令和3年度年度計画について主務大臣に届出。
-  **3/26** 農業信用保険業務、林業信用保証業務及び漁業信用保険業務に関する業務方法書の変更について主務大臣が認可。

人事異動

令和3年3月30日付

退職 総括調整役 飯田 喜章
((国研) 森林研究・整備機構森林整備センター関東整備局長へ)

令和3年4月1日付

総括調整役 岡村 和哉
((国研) 森林研究・整備機構森林整備センター関東整備局長より)

本号の24～25ページでも紹介していますが、当基金は、今年の1月12日に新しいオフィスに移りました。しかし当時は緊急事態宣言が出された直後でしたので、テレワークを大幅に取り入れて、職員の出勤を減らすことになりました。私も何度もテレワークをしましたが、テレワークの場合、あまり邪魔が入らず自分の作業に集中できます。ただ、一つだけ例外がありました。我が家の飼い猫です。

うちには1匹のネコがいます。私がテレワークをしていると、しょっちゅう足もとに来てはニャーニャー言います。仕事なので放っておくと、いつまでもしつこくニャーニャー鳴くのです。仕方がないので相手をします。そうすると、ネコが何を求めているのか、だいたい分かります。まあ概ねこんなところですよ(↓)。

- 1回目：「ニャーニャー」＝エサがないぞ
- 2回目：「ニャーニャー」＝背中搔いて
- 3回目：「ニャーニャー」＝シッコしたニャン(→トイレ掃除して)
- 4回目：「ニャーニャー」＝ウンコもしといたから

午前中はこんな感じでちょっとやかましいのですが、午後になって、部屋に日差しがよく入る時間になると、ネコは居眠りを始めます。

部屋は途端に静かになります。パソコンをうつ音だけが響きます。ネコは私の傍らで気持ちよさそうに寝ています。ときどき仕事の手を休め、そっと頭を撫でてみます。

心和む静かな時間……。

コロナで私たちの日常は変わり、賑やかな楽しみはできなくなりました。ですが、幸せは、身近にある静かな空間の中に案外たくさんあるのかもしれない。読者のみなさまはいかがでしょう。

(広報誌編集担当M)

編集後記

 2021年2号 No.6 2021年5月20日 発行

編集・発行 独立行政法人 農林漁業信用基金 企画調整室 企画推進課
(問合せ先) 〒105-6228 東京都港区愛宕2-5-1 愛宕グリーンヒルズMORIタワー 28階
TEL:03-3434-7813 MAIL:kikaku@jaffic.go.jp

装丁・印刷・製本 株式会社丸井工文社

独立行政法人 農林漁業信用基金

Agriculture, Forestry and Fisheries Credit Foundations



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。